

県西地域におけるほ場整備事業の取組について

【足柄上支部】 県西地域県政総合センター ほ場整備課

足柄上ほ場整備課が南足柄市内山地区で実施している県営ほ場整備事業について紹介します。内山地区は南足柄市東部の2級河川内川沿いに広がる傾斜の強い水田地帯です。面積約24ha、内川沿いに延長2km、幅200m、高低差80mの形状で農道は殆ど無く、水路は用排兼用。関係者は100名、現在500筆ある農地を集積し、農道、用水路及び排水路を新設し100区画の水田に造成する計画です。本地区は昭和23年に発生したアイオン台風の豪雨により内川が大氾濫し農地が流出する大被害を被りました。被災後、地元関係者が人力で水田を復旧し現在に至っています。内川の氾濫により農地の基盤が流出したことから、ほ場整備工事の実施にあたり大量の盛土材が必要となっています。

今年度は工事の初年度で約2haの区画整理工事を実施していますが、必要な客土材は「礫質土」と「赤土」の合計で18,000m³となっており、中日本高速道路株式会社、神奈川県内広域水道企業団、三保ダムなどから無償で現場に搬入し工事を進めています。

実施中の工事の工程に合わせ、必要な時期に必要な量を現場に搬入するよう、中日本高速道路株式会社などの搬出側と毎日数回連絡を取り合い、搬入量の調整や土質の確認を行っており、これと並行して次年度以降の客土の確保についても調整を進めています。

工事着手前の内山地区



搬入した礫質土（水田基盤材）



区画整理工事の状況



搬入される赤土（畦畔土、水田遮水土）



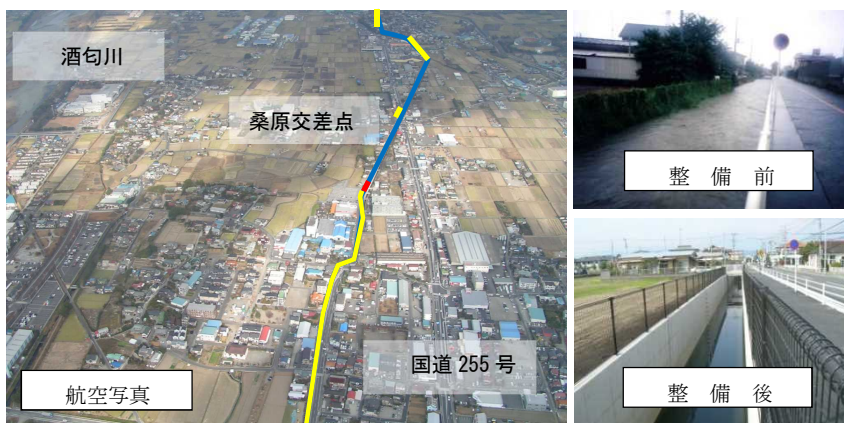
現在、西湘支部管内では湛水防除事業鬼柳2期地区、農地保全事業曾我別所地区、基幹農道整備事業早川石橋地区、農業用施設防災対策事業酒匂川沿岸地区、農業用排水路整備鬼柳地区の5地区を県営事業として整備を進めています。

また、県民の皆様の食と農に対する理解を深め、地域の農業を理解して頂くイベントとして、農業農村理解促進事業を実施しています。そこで、代表的な事業である鬼柳2期地区の整備状況と理解促進イベントについて報告させていただきます。

1. 湛水防除事業鬼柳2期地区について

本地区は酒匂川左岸の中流域から下流域の水田地帯に位置し、鬼柳堰及び豊川支線、鴨宮支線は、地域のかんがい排水だけではなく、市街地の雨水排水も受け持っている用排兼用水路です。昭和38年から43年に県営一般かんがい排水事業により整備されましたが、開発による水田の減少に伴う貯水機能の低下や都市排水の増加により、豪雨時は水路の溢水や水田への湛水が多発していました。そのため、平成6年度に国採択を受け排水機能を回復するための整備を進めています。

整備延長 4,673m、予定工期は平成6年度から平成34年度で、1期地区は平成21年度に完了し、現在2期地区の整備を平成29年度までの工期で進めています。整備延長は平成28年度までで1,970m(全体の42.2%)となっており、平成30年度以降の整備については3期地区として国採択を受け整備を行う予定です。



2. 農業農村理解促進イベントについて

農地課では、毎年度2回から3回の農業農村理解促進イベントを実施しています。平成28年10月28日には「早川フレッシュみかんウォーキング」と銘打ち、早川駅をスタートする約5kmのコースで、「早生みかん」の収穫体験や早川土地改良区の方々の地域の農業についての説明を受けるなど、多面的機能支払制度を活用して維持管理を行っている水路兼用農道や基幹農道をウォーキングしました。小学生とご家族約40名の参加があり、普段知らないことを知ることができて貴重な体験となった等の好意的なご意見を多数いただきました。

